テーマ：社会へとつながる言語能力の育成

言語能力をはぐくむモデル校
吹田市立南山田小学校

つけたい力

学びを調整する力（学習計画を立てる）
学びを決める力（問いをもつ）／学びをつなげる力
学びを表現する力／学びをふりかえる力

取組みの概要・ポイント

〇つけたい力と言語活動を軸にした授業づくり
〇子どもの問いを軸にした授業展開

南山田の取組み

具体的な取組みの内容　言語活動と子どもの問いを軸においた授業づくり

つけたい力と言語活動を軸にした授業づくり

【つけたい力を子どもたちと共有する】

単元の最初には、子どもたちとつけたい力を共有する。つけたい力を共有することにより、学びの目的を明確にする。また、つけたい力は抽象的であるため、授業の中で具体的にしていき、つけたい力を子どものものにしていく。

【言語活動を設定する】

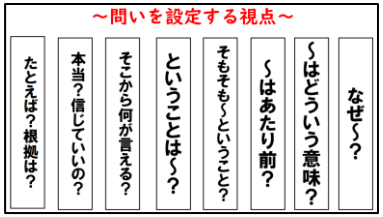
つけたい力をもとに言語活動を設定する。言語活動を設定する時は、「つけたい力と言語活動がつながっているか」「相手意識はどうなっているのか」ということを大切にしていく。

【学校図書館との連携】

言語活動を達成するために、①知りたい情報を調べる場②協働的に学べる場の役割を図書館が果たしている。1人1台端末の情報だけではなく、本によって調べた情報を活用していくことも大切にしている。

子どもの問いを軸にした授業展開

【問いをつくる】



問いをつくる視点を子どもたちと共有した上で問いをつくる。低学年段階から、気になることに「？」を持つ力を養っていきたい。

また、大事なのは、「何のために問いをつくるか」ということを子どもたちと共有することである。

【問いを整理する】

たくさん出た問いを整理していく。整理していくためには、整理の観点を子どもたちと創っていく。整理することを通して、情報と情報を関連付ける力を育成することも1つのねらいとなる。

さらに、整理して見えてきた問いの傾向を、分析することによって、問いを精査することにつなげる。

【問いを決める】

自分がどの問いを解決したいのかを理由と共に選ぶ。学びの方向性を決める場面である。問いを解決する時、個人で解決する場合もあれば、クラスで1つの問いを決めて解決するなど多様な授業展開を設定する。

取組みを通しての子どもの変容

〇問いを立てる→問いを決める→問いを解決する→問いを評価するというサイクルを繰り返すことにより、子どもたちの問いの質が向上した。
〇アンケート項目「授業では目標達成にむけて進んで取り組んでいる」において、肯定的な回答が上昇した。89%（4月）→91%（12月）